

企業を訪ねて 10

佐藤食品工業株式会社（サトウのごはん・切り餅等の製造・販売）

■「ご飯は永遠の食! これからも安全・安心な『本物の食』を提供し続けます!」

平成26年2月6日(木)、新潟市東区宝町の佐藤食品工業株式会社を訪ねました。取締役会長の佐藤功氏から“これからの食生活と社会の変化”について伺いました。

聞き手◆若年世代に対する感想は？

佐藤氏◇若い人達に大きな変化が見られますね。例えば、家族構成が最たる例で、食品メーカーとしてこの種の変化に注目しています。企業としては商品が売れなければなりませんし、多くの人が食べ続ける商品でないといけません。それなのに最近の傾向として、「独身でもいいかな?」なんて思う人が増えており、食品メーカーとして少子高齢化や核家族化は大きな問題ですよ。

◆10年、20年後の社会はどのように変化しているでしょうか？

◇これからは、核家族や単身者の増加等で、食の個食化がますます進むと予想しています。家族の形は、核家族化から個々家族(独身族)へと変わるでしょうから、その後を見据えた事業展開を図っていくことが必要です。現在でも食の量目(内容量や正味量)変化が見られ、コンビニを中心に1食のおかず類の販売が急速に広まりつつあります。この様に食べ方が多様化する中で、ごはんは無くない食品でもあり、毎日食べても飽きない食品の代表例です。従って、少子高齢化の中で欠かせない食品と考えており、これまで以上に利便性を重視した食の提供に努めたいと考えています。

◆“サトウのごはん”が発売されてから20年が経過しました。開発者でもあり、提供者でもある立場からどのような思いがありますか。

◇パックごはんに関しては、当社が一番先に開発しましたが、ごはん1パックの量を決めるのに一番悩みましたね。当時の弁当屋さんのごはんが大体250～280gでしたが、それではちょっと多いし、それ以下だと少ないということで、最終的に200gに落ち着きました。ごはん200gは茶碗に大盛1杯くらいの量ですが、シルバー世代には少し量が多い様でした。

当初は、独身者や単身赴任の方が販売対象の多くを占めると予想しておりましたが、購入したお客さんの多くはシルバー世代の方々であり、予想が外れた形となりました。だって、年配の方は、ごはんを買って食べることに抵抗があると思ってましたからね。“ご飯を買って食べる”とは何事だ。この横着者(怠け者)が!“という感じですよ。でも実際には多くの年配の方々に買って頂き、「おいしい」と評判になると共に礼状もかなり届きました。

このような背景には、当社のごはんは、高温・高圧スチームで殺菌を行い、1食ずつ釜で炊いてますから、炊き立てのごはんの香りを味わえることにあります。お米オンリーの会社ですから、独自の製法をしっかりと守っているため、味の保証は絶対です。



佐藤 功 会長 (佐藤食品工業本社にて)
聞き手：原 利昭 本学副学長 (地域産学交流センター長)

◆御社の社員教育、人材育成についてお聞かせ下さい。

◇やはり、ただ仕事をやっているだけでは成長しません。社内の方針として、数十年前から各工場において発表大会を毎年行っています。社員がグループ別に、自分たちがやっている仕事の何を解決すべきかを具体的なテーマとし、工場を如何に良くするか、あるいは安全に仕事をするか等を、全員で知恵を出して考えて貰っています。コミュニケーションと共に仲間意識を持ってもらうことも大切ですね。

それから、全国の社員の中から6人程度を選考し、ハワイの Condominium で1週間程度の研修を年3回行っています。(もちろんゴルフも可としますよ。)研修期間中の食事担当は、全て私が担いますから、食材を仕入れるために私だけ1日早く現地入りするんです。全国の社員とは、年1回会うか会わないくらいの人がほとんどですから、私と寝起きを共にするというのは、考えられないことかもしれません。こうやって社員と直接向かい合って様々な話をするのも楽しみの一つですよ。

◆本学に対して期待することをお聞かせ願います。

◇まず、学生さんに期待することは、目的を持って学んでもらうことです。つまり、悪いのは目的を持たず「ただ何となく学ぶ」です。自らの目指す道を歩んでもらいたいのです。

それから、新潟工科大学はものづくりを旨とする大学ですから、産業界との連携・交流を、これまで以上に発展させてもらいたいと思います。先生方は大学内だけの研究に留まらずに、地域との交流を核にして展開してもらいたいですね。

◆お忙しい中、大変貴重なお話をいろいろとお聴きする事が出来ました。有り難う御座いました。